

郡上市白鳥・高鷲地区森林整備推進協定を締結

【岐阜森林管理署】

国有林では、民有林と協調した路網整備、森林整備を進めるため、関係市町村、県、森林組合等と該当森林管理署において「森林整備推進協定」の締結を推進しています。平成13年度の取組開始以降、中部森林管理局管内では13地区で協定が締結されました。

岐阜県内においては、これまでに、飛騨川流域三地区(東白川村、下呂市、七宗町)、宮・庄川流域一地区(高山市)、木曾川流域一地区(中津川市)、揖斐川流域一地区(揖斐川町)の計6地域において協定が締結されています。

今般、岐阜県内で7地区目、長良川流域では初となる森林整備推進協定の締結のための調整が整い、2月15日に協定締結式を行いました。

今後は、今回締結した森林整備推進協定に基づき、郡上市白鳥・高鷲地区における具体的な森林共同施業団地の設定に向けた関係者間の協議をさらに進めていきたいと考えます。



各団体の長による協定の締結

コンテナ苗の生産技術向上と普及に向けて

【森林整備課】

2月19日、長野県林業センターにおいて長野県山林種苗協同組合の主催による「苗木生産研修会」が開催されました。苗養技術の向上を目的に開催されたもので、苗木生産者と需要者である中部森林管理局、長野県、森林組合、林業事業者等多くの関係者が参加しました。

研修会では、長野県からは、森林づくり推進課の宮崎技師から「長野県の山林種苗行政について」、また、長野県林業総合センターの清水研究員から「長野県のコンテナ苗の生産技術及び病害虫対策等について」講演がありました。

当局からは、森林整備課郷原監査官から、低コスト造林の推進に向けたコンテナ苗の必要性和、花粉症対策苗を積極的に使用していく当局方針を伝え、生産者への協力をお願いしました。また、東信森林管署の島田、加東両森林育成担当より、中部森林技術交流発表課題である「カラマツ種子の安定供給に向けた取組(清万採取園の整備)」について発表し、参加者の関心を集めることができました。

基調講演では、前全苗連会長の太田清蔵氏から「コンテナ苗木の有利性とその植栽状況について」と題し、コンテナ苗導入当初から積み重ねてこられた経験と研究に基づいた紹介がされました。

今後のコンテナ苗の安定生産技術の向上と普及について、一層の理解を深めることができる有意義な研修会となりました。



カラマツのコンテナ苗畑